鹿児島市門型標識維持管理計画

平成 30 年 3 月 策定
令和 7 年 7 月 改訂

1. 維持管理計画策定の背景及び管理門型標識の現状・課題

鹿児島市が管理する門型標識は 1 基あります。

路線名	市道平田橋武線
設置箇所	鹿児島市鷹師 1 丁目 4 番地先

（※門型標識とは、道路標識の 1 種で、車道をまたぐ門型支柱により、標識板を車道部の上方に設置したもの）
用途は案内板であり、上下線ともに案内標識が設けられています。
建設年次はおよそ 1986 年頃で、2018 年現在で 32 年を経過しています。
今後、施設の劣化が進行することで、金属片の落下などの事象が発生しないように、定期点検による確実な状態把握（早期発見）と、点検結果に基づく確実な対策（早期補修）を行います。

写 1．起点側より望む

写 2．終点側より望む

健全性の診断区分

区分		状態
Ⅰ	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態
Ⅱ	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが，予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
Ⅲ	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり，早期に措置を講ずべき状態
Ⅳ	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている，または生じる可能性が著しく高く，緊急に措置を講ずべき状態

※2018 年時の点検調査結果、一部腐食が見られますが、健全性の診断としては、Ⅱ（予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態）を確認しています。

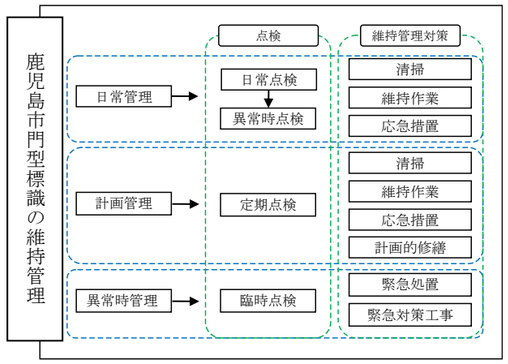
写 3．点検風景

写 4．横張取付部（腐食）

写 5．標識版取付部（腐食）

2. 門型標識の管理方法

門型標識を適切かつ継続的に管理していくために、パトロール巡視等の「日常的な維持管理」、5 年ごとの定期点検や計画に沿った修繕等を行う「計画的な維持管理」、地震等の災害が発生した際の緊急的な点検や応急措置等の修繕を行う「異常時の維持管理」の 3 つに分けて管理を行います。（右図参照）



3. 維持管理計画の効果

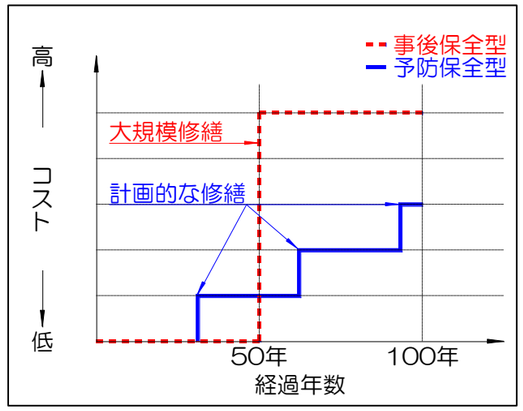
『門型標識維持管理計画』は、適切な点検を行うことにより、門型標識の損傷状態を定期的に把握し、損傷が小さい段階で修繕（**予防保全型修繕**）することで門型標識の長寿命化を図ると共に、費用の軽減を行う計画です。

また、長期的な視点で門型標識を維持管理することにより、ライフサイクルコスト（ＬＣＣ）の縮減を行います。

対象施設は 1 基のみで、集約できる施設もないことから集約・撤去は困難であるが、利用状況などを勘案し、将来的な廃止も含めた検討を行うほか、点検・修繕時に新技術等の導入によって令和 10 年度までに 1 基で約 10 万円の費用縮減を目指します。

※損傷が小さい段階で修繕(予防保全型修繕)を実施していくことにより、修繕回数は増加しますが、1 回当りの修繕費は低くなりますので、損傷が大きくなってから(事後保全型修繕)の修繕に比べてコストを縮減することが可能となります。

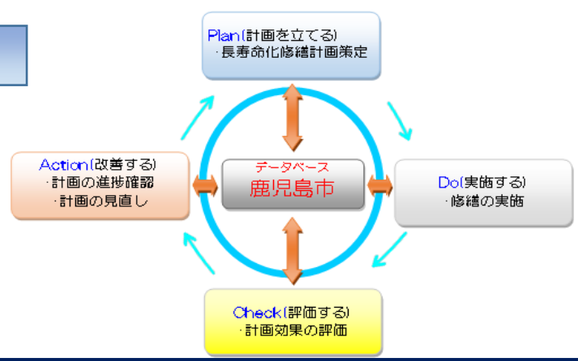
維持管理計画による LCC の推移



4. 維持管理計画

施設名	健全性	実施済	対策年度(予定：点検○・設計△・修繕□)										対策費用(百万円)		主な対策内容	備考
		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	修繕費	点検費		
門型標識	Ⅱ	●		□			○					○	1.5	2.0	塗装工 欠損部補修工	

健全性の診断結果に基づき、2020 年に塗装工や、欠損部補修工等の対策を行います。
また、5 年に 1 度の定期点検及び日常パトロール等の点検で、適正に門型標識を管理します。

5. 維持管理計画の運用

★メンテナンスサイクルの構築
「Plan(計画を立てる)」→「Do(実施する)」→「Check(評価する)」→「Action(改善する)」といったメンテナンスサイクルを構築し、計画的に実施します。